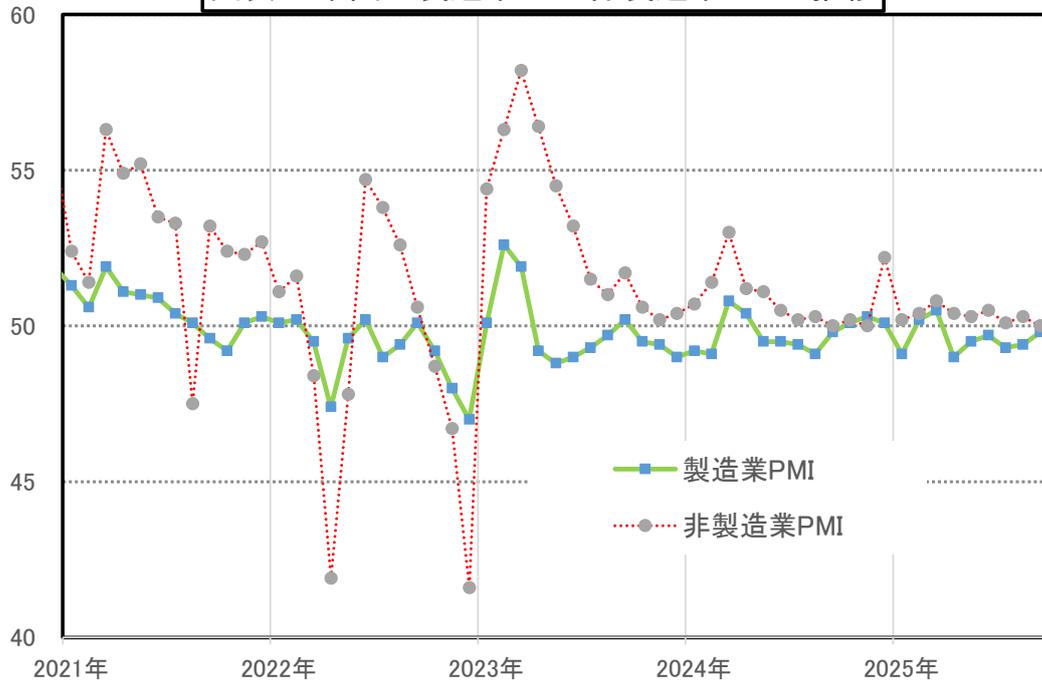


## (中国)企業全体の景況感は小幅改善も依然として弱含み

中国国家统计局が2025年9月30日に発表した9月の製造業PMI(購買担当者景気指数)は49.8となり、前月から0.4ポイント上昇した(図表1)。これにより、2か月連続で小幅な改善が見られたものの、景況感の分岐点である50を6か月連続で下回っており、製造業全体としては弱含みの状態が続いているとみられる。

図表1 中国の製造業PMI・非製造業PMIの推移



(資料) 中国国家统计局、Windより作成、直近は25年9月。

企業規模別に見ると、大手企業(51.0)および小規模企業(48.2)はいずれも前月から上昇したが、中堅企業(48.8)は0.1ポイントの下落となった。また、S&Pグローバルがまとめた9月のRating Dog 中国製造業PMI(旧・財新中国PMI)は51.2と前月比で0.7ポイント上昇した(図表2)。これらを踏まえると、小規模企業の景況感が改善傾向にあるとみられる。

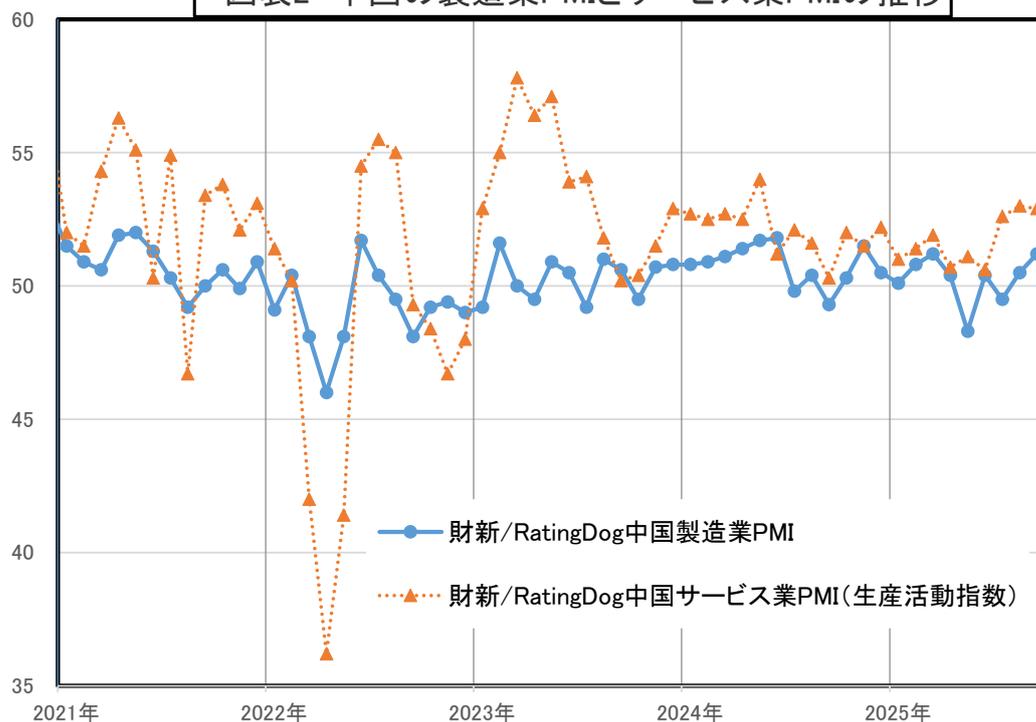
構成項目別では、生産(51.9)、新規受注(49.7)、新規輸出受注(47.8)がいずれも前月から上昇したほか、雇用(48.5)および先行き活動予想(54.1)も改善が見られた。一方で、原材料購入価格(53.2)および出荷価格(48.2)はそれぞれ0.1ポイント、0.9ポイント下落した。

こうした動向から、受注環境には改善の兆しがあるものの、依然として50を下回る水準にあり、需要不足の解消に向けたさらなる取組みが求められる。政府および業界は「反内巻」(過度な価格競争の抑制)を積極的に推進しているが、過剰供給の緩和には至っていないのが現状である。今後は内需の一層の喚起と「反内巻」政策の強化が必要であろう。

業種別では、ハイテク製造業(電子情報、新材料、バイオ医療、新エネルギー、航空製造など)、装備製造業、消費財がそれぞれ 51.6、51.9、50.6 と 50 を上回り、製造業全体の景況感を下支えしている。特に、食品・酒・飲料、自動車、鉄道・船舶・航空・宇宙関連設備においては、生産指数および新規受注指数がいずれも 54 を超えており、堅調な動きが見られた。

また、非製造業 PMI も弱含みの様相を呈している。中国国家统计局による 9 月の非製造業 PMI は 50.0 と前月から 0.3 ポイント下落した(図表 1)。新規受注(46.0)および先行き活動予想(55.7)はともに低下し、雇用(45.0)も一段と悪化している。Rating Dog 中国非製造業 PMI も 52.9 と 0.1 ポイントの下落となった(図表 2)。

図表2 中国の製造業PMIとサービス業PMIの推移



(資料) Windより作成、直近は25年9月。

業種別では、不動産市場の調整や地方政府の財政制約を背景に、建設業は 49.3 と 2 か月連続で 50 を下回った。建設業は雇用への波及効果が大きいと、その低調さは非製造業全体の雇用環境の厳しさにつながっていると考えられる。また、サービス業は 50.1 と辛うじて 50 を上回ったものの、前月比で 0.4 ポイントの下落となった。ただし、郵政、情報通信(ラジオ・テレビ放送)、衛星情報サービス、金融サービス(資本市場関連)は 60 を超える高水準を維持している。

これらの動向から、オンラインショッピングなど一部業種は堅調である一方、外食、娯楽、観光などの業種では勢いを欠いている。今後の展望としては、住宅市場へのテコ入れ策の強化や新型政策金融ツールの発動などにより、建設業およびサービス業の一定程度の改善が見込まれる。その結果、非製造業 PMI が再び 50 を上回る可能性が高いと考えられる。

以上の製造業および非製造業の PMI を総合的に踏まえると、企業の景況感は全体として小幅な改善にとどまっており、特に建設業の景況感を一段と押し上げる必要がある。各地で相次いで発表された住宅市場への支援策の強化や、インフラ投資を促進するための新型政策金融ツール(0.5 兆元)の発動が決定されたことから、今後の政策効果に注目が集まっている。